記載の手引き

医療保護入院者の入院届

医療保護入院者の定期病状報告書

措置入院者の定期病状報告書

（千葉市精神医療審査会における審査書類）

令和5年7月改訂

問い合わせ先

千葉市こころの健康センター

（千葉市精神医療審査会事務局）
〒261－0003　千葉市美浜区高浜2－1－16
電話　043(204)1582　　FAX　043(204)1584

目　　次

1　提出期限……2

2　医療保護入院者の入院届　記載要領……3

3　医療保護入院者の定期病状報告書　記載要領……10

4　措置入院者の定期病状報告書　記載要領……17

5「生活歴及び現病歴」欄等の記載例……24

（1）医療保護入院者の入院届／「生活歴及び現病歴」欄の記載例
（2）医療保護入院者の入院届／「医療保護入院の必要性」欄の記載例
（3）医療保護入院者の定期病状報告書／「生活歴及び現病歴」欄の記載例

精神医療審査会について

精神医療審査会は、精神障害者の人権に配慮しつつ、その適正な医療及び保護を確保する点から、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」により設置されている。
（精神保健福祉法第12条）

精神医療審査会においては、適正な医療及び保護を確保するためには患者本人の意思によらない入院や行動の制限等を行わなければならない場合があるという精神医療の特殊性を踏まえ医療の提供及び人権の擁護の観点から入院継続の適否等の審査を行うことが必要である。
（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第12条に規定する精神医療審査会について
平成12年3月28日　障第209号　厚生省大臣官房障害保健福祉部長通知）

1　提　出　期　限

※ 提出期限は、病院からの送付日ではなく、保健所受理日が期限内であることが必要です。

（1） 医療保護入院者の入院届

入院日の翌日から10日以内（※入院診療計画書の写しを添付）

（例：令和5年4月2日医療保護入院⇒4月12日までに提出）

（2） 医療保護入院者の定期病状報告書

法第33条（医療保護入院）の規定による入院日が属する月の翌月を初月として、同月以降の12ヶ月ごとに行う。（例：令和4年4月1日医療保護入院⇒令和5年4月定期病状報告）

（3） 措置入院者の定期病状報告書

入院措置がとられた翌月を初月として、同月以降の6ヶ月ごとに行う。（ただし、入院年月日から起算して6ヶ月が経過するまでの間は、3ヶ月）

（例：令和5年4月21日措置入院⇒令和5年7月初回定期病状報告、令和5年10月第2回定期病状報告、令和6年4月第3回定期病状報告）

２ 医療保護入院者の入院届 記載要領

1 記載・選択必要事項は、漏れなく記載・選択してください。

2 記載事項を訂正する場合には、次のいずれかの方法により行ってください。

(1) 欄外に記載した精神保健指定医の署名をし、『○○字加筆』『○○字削除』等の記載をする。

(2) 訂正箇所に二重線を引き、その付近に記載した精神保健指定医が署名する。

3 提出期限を厳守してください。（保健所受理日が入院の翌日から10日以内となるように提出。）

4 記入に当たっては、適切で円滑な審査が出来るよう、読みやすい書体で丁寧に記載してください。また、パソコンの場合、文字ポイントは9ポイント以上としてください。なお、記載される用語は、医療の専門用語の略語や英語表記はなるべく使用せず、原則として日本語を使用してください。

5 電子カルテの利用等によりパソコンでの記載をされる場合には、記載事項の削除、書式の改変はなさらぬようお願いいたします。

6 用紙の色については、医療保護入院者の入院届は、黄色としておりますので、準じた色の用紙をお使いください。

7 家族の同意書、また、入院に際しての同意者が家庭裁判所により選任された者であるときは、選任書の写しを添付してください。

8 入院者が未成年の場合で親権者が両親の場合は、原則として同意書にそれぞれの署名（あるいは記名押印）が必要です。

9 医療保護入院者の入院届と同意書については、提出日と入院日、氏名、住所などに矛盾がないように確認の上、提出してください。

10 法第 34 条による移送有りの場合は、医療保護入院者の入院届の「病名」「生活歴及び現病歴」「現在の精神症状」「その他の重要な症状」「問題行動等」「現在の状態像」欄への記載の必要はありませんが、保健所より受け取った「事前調査票及び移送記録票」と「診察記録票」の写しを本届出に添付してください。

11 入院届の提出にあたり、推定される医療保護入院による入院期間及び選任された退院後生活環境相談員の氏名を記載した入院診療計画書の写しも添付してください。

様式第 9 号

医 療 保 護 入 院 者 の 入 院 届

①提出年月日を記入

年　　月　　日

（あて先）千 葉 市 長

病 院 名

所 在 地

管理者名

②記載漏れに注意

医 療 保 護 入 院 者	フリガナ		生年月日	年　　月　　日生（満　　歳）
	氏　名	（男･女）		
	住　所	都道府県　　郡市区　　町村区		
家族等の同意により入院した年月日	年　　月　　日		今回の入院年月日	年　　日　　日
			入院形態	
		あり　　なし		
病　　名	主たる精神障害 ICD カテゴリー（　　）	2　従たる精神障害 ICD カテゴリー（　　）	3　身体合併症 続柄　　）	
生活歴及び現病歴 （推定発病年月、精神科受診歴等を記載すること。） （特定医師の診察により入院した場合には特定医師の採った措置の妥当性について記載すること。）				
初回入院期間	（入院形態　　年　　月　　日～昭和・平成　　年　　月　　日			
前回入院期間	（入院形態　　年　　月　　日～　　年　　月　　日			
初回から前回までの入院回数	計　　回			

⑥
・ICD-10に準拠した病名を記入
・継続的な入院治療の対象となる病名を記入

④複数の入院形態を経ている時は、入院形態と変更年月日を順に記載
例）措置→任意(R5.4.1)

⑥ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ+2桁以上で記載（例：F20）

⑥精神障害の原因となった身体疾患や、入院治療上、関連の深い身体疾患を記入

⑦
・生活歴は、家族歴（結婚歴）、学歴、職歴等を踏まえて記載
・生活歴に不明な部分があれば、その旨記載
・現病歴は、初発時の症状と経過と、今回の医療保護入院に至った経緯については最低限記載し、病歴が長い場合は、主なものについて記載
・神経科受診歴も記載

⑦記載漏れに注意

⑧不詳の項目には「不詳」と記載

⑧複数の入院形態を経ている時は、入院形態を順に記載　例）措置→任意

⑧
・前回入院期間は、今回の入院を除いた直近の入院期間を記載
・初回から前回までの入院回数が１回の場合は、前回入院期間・入院形態は記載せず、初回入院期間・入院形態のみ記載

⑧
・貴病院への入院に限らず、他の精神科病院(他の診療科への入院は除く)への入院も含めた入院期間及び入院形態及び入院回数について記載
・入院回数は、1つの病院に入院して退院するまでを1回と数え、入院中に入院形態の変更があってもその変更は入院回数に算入しない
・今回の入院が初回入院の場合は、「0回」と記載

	Ⅴ　思考 1 妄想　2 思考途絶　3 連合弛緩　4 滅裂思考　5 思考奔逸　6 思考制止 7 強迫観念　8 その他（　　） Ⅵ　感情・情動 1 感情平板化　2 抑うつ気分　3 高揚気分　4 感情失禁　5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進　7 その他（　　） 意欲 衝動行為　2 行為心迫　3 興奮　4 昏迷　5 精神運動制止 無為・無関心　7 その他（　　） 自我意識 離人感　2 させられ体験　3 解離　4 その他（　　） 食行動 1 拒食　2 過食　3 異食　4 その他（　　）
＜その他の重要な症状＞	1 てんかん発作　2 自殺念慮　3 物質依存（　　） 4 その他（　　）
＜問題行動等＞	1 暴言　2 徘徊　3 不潔行為　4 その他（　　）
＜現在の状態像＞	1 幻覚妄想状態　2 精神運動興奮状態　3 昏迷状態 4 統合失調症等残遺状態　5 抑うつ状態　6 躁状態　7 せん妄状態 8 もうろう状態　9 認知症状態　10 その他（　　）
医療保護入院の必要性 患者自身の病気に対する理解の程度を含め、任意入院が行われる状態にないと判断した理由について記載すること。	

⑨
・該当するローマ数字及び算用数字を〇で囲む
・ローマ数字の選択漏れに注意

⑨必ず１つ以上選択

⑩
・任意入院が行われる状態にないことが明らかになるように次の①～③を具体的に記載
　①　具体的な精神症状とその内容　②本人の同意の有無　③本人の同意能力の有無
・市町村長同意による入院の場合は、その理由を記載

⑪診断した精神保健指定医自身が記入

名	(男･女)	続　柄	明･大
	(男･女)		
所	都道府県	郡市区	町村区
	都道府県	郡市区	町村区

⑫同意者が市町村長である場合は、氏名欄には職氏名（〇〇市長〇〇〇〇等）を記載

偶者　2 父母（親権者で　ある・ない）　3 祖父母等
・孫等　5 兄弟姉妹　6 後見人又は保佐人
庭裁判所が選任した者（選任年月日　　年　　月　　日）
町村長

⑫
・同意書や選任書の内容と矛盾がないように注意
・入院者が未成年で親権者が両親の場合は、原則として父母それぞれについて記載。ただし、特段の事由（虐待等）がある場合は、例外とし、その旨余白に記載
・入院者が未成年で親権者が1名しかいない場合は、「親権者1人のみ」と余白に記載

審　査　会　意　見	
政令指定都市市長の措置	

記　載　上　の　留　意　事　項

1　□内は、精神保健指定医の診察に基づいて記載すること。
ただし、第34条による移送が行われた場合は、この欄は、記載する必要はないこと。

2　今回の入院年月日の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること。（特定医師による入院を含む。その場合は「第33条第１項・第３項入院」、「第33条第２項・第３項入院」又は「第33条の７第２項入院」と記載すること。）なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。

3　生活歴及び現病歴の欄は、他診療所及び他病院での受診歴をも聴取して記載すること。

4　平成20年３月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等に含むこととする。

5　初回及び前回入院期間の欄は、他病院での入院歴・入院形態をも聴取して記載すること。

6　現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像の欄は、一般にこの書類作成までの過去数か月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。

7　入院を必要と認めた精神保健指定医氏名の欄は、精神保健指定医自身が署名すること。

8　家族等の氏名欄は、親権者が両親の場合は２人目を記載すること。

9　家族等の住所欄は、親権者が両親で住所が異なる場合に２つ目を記載すること。

10　提出に当たっては、推定される医療保護入院による入院期間及び選任された退院後生活環境相談員を記載した医療法施行規則第１条の５に規定する入院診療計画書の写しを添付すること。

11　選択肢の欄は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を〇で囲むこと。

①「日付」欄

○　入院届を提出する年月日を記載してください。やむを得ず遅れて提出する場合も、遡及した日付とせず、実際の提出日を記載してください。

②「氏名、性別、生年月日、住所」欄

○　所定の書式に沿って、記入漏れや間違いのないようにご注意の上、記載してください。
○　同意書と矛盾がないように記載してください。
○　氏名・住所等が不明な場合には、「不明（もしくは不詳）」と記入してください。

③「家族等の同意により入院した年月日」欄

○　家族等の同意により法第 33 条の規定により入院した年月日を記載してください。
○　入院継続中に、他の入院形態（応急入院や任意入院、措置入院等）から医療保護入院に変更となった年月日を記載してください。

④「今回の入院年月日／入院形態」欄

○　入院形態にかかわらず、今回入院となった年月日及び入院形態を記載してください。（応急入院、任意入院、措置入院等）
○　入院当初から医療保護入院の場合は、「家族等の同意により入院した年月日」と同一の日付になります。
○　複数の入院形態を経ている場合は、「入院形態」欄に入院形態と変更年月日を順に記載してください。
○　同じ病院で他の診療科病棟から精神科病棟へ転棟する場合は、他の診療科病棟に入院した日ではなく、精神科病棟に入院した日を記載してください。

⑤「法第34条による移送の有無」欄

○　必ず「有り」又は「なし」のいずれかを〇で囲んでください。

⑥「病名」欄

○　「主たる精神障害」欄については、その疾患等が精神障害を示していることが明らかになる ICD-10 に準拠した病名を1つだけ記載してください。
○　継続的な入院治療の対象となる病名を記載してください。
○　病名と整合性のある ICD カテゴリーを記載してください。（ICD カテゴリーは、アルファベットプラス 2 桁以上を記載してください。例：F20）
○　「〇〇の疑い」「〇〇状態」などの記載は避けてください。ただし、どうしても書かざるを得ない場合には、その理由を「生活歴及び現病歴」欄に明記してください。
○　「3. 身体合併症」欄は、精神障害の原因となった身体疾患や、入院治療上、関連の深い身体疾患を記載してください。

⑦「生活歴及び現病歴」欄（記述式）

○　生活歴は、家族歴（結婚歴）、学歴、職歴等を踏まえて記載してください。特に家族歴（結婚歴）については、家族等の同意に関係する事柄ですので、必ず記載してください。生活歴に不明な部分があれば、その旨記載してください。

○　現病歴は、初発時の症状と経過と、今回の医療保護入院に至った経緯については最低限記載してください。病歴が長い場合は、主なものについてご記載ください。

○　平成20年3月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等に含めてご記載ください。

○　陳述は、なるべく本人以外の人物から得ることが望ましいですが、それが不可能な場合や、陳述者が判明しない場合などのやむを得ない場合は、「本人」や「診療録より」などと記載しても差し支えありません。

○　必要事項が記載されていれば、この欄に前回届出分のコピーや印刷されたもの等別紙を貼りつけても差し支えありませんが、その場合には、付近に貼付した旨と記載した精神保健指定医の署名をしてください。

⑧「初回・前回入院期間、初回から前回までの入院回数」欄

○　貴病院への入院に限らず、他の精神科病院への入院も含めた（他の診療科への入院は除く）入院期間及び入院形態及び入院回数について記載してください。

○　前回入院期間は、今回の入院を除いた直近の入院期間及び入院形態を記載してください。

○　入院回数は、1 つの病院に入院して退院するまでを 1 回と数え、入院中に入院形態の変更があってもその変更は入院回数に算入しません。

○　今回の入院が初回入院の場合は、「0 回」と記載してください。

○　初回から前回までの入院回数が 1 回の場合は、前回入院期間・入院形態は記載せず、 初回入院期間・入院形態のみ記載してください。

○　入院形態の移行がある場合は、入院形態を順に記載してください。（例：措置→任意）

○　不詳の項目には、「不詳」と記載してください。

⑨「現在の精神症状・その他の重要な症状・問題行動・現在の状態像」欄

○　過去数か月間に認められた病状又は状態像のうち、主に最近のそれに重点を置いて、該当するローマ数字及び算用数字を〇で囲んでください。必要に応じ「その他」のカッコ内に具体的に記入してください。ローマ数字の選択漏れにご注意ください。

○　「現在の状態像」は、必ず1つ以上選択してください。

⑩「医療保護入院の必要性」欄

○　任意入院が行われる状態にないことが明らかになるように記載してください。

○　具体的な病状、本人の同意の有無や、本人が入院治療の必要性等の理解が出来る状態にあるか否かが明らかになるように①具体的な精神症状とその内容②本人の同意の有無③本人の同意能力の有無について記載してください。

○　市町村長同意による入院の場合は、家族等の状況も踏まえて、その理由をここに記載してください。

＜市町村長同意＞家族等がない場合（行方の知れない場合を含む。旅行等により、一時的に連絡を取ることができない場合は除く。）、家族等の全員がその意思を表示することができない場合（心身喪失等）、または、家族等が DV や虐待の加害者であり、当該家族が唯一の家族である場合。

⑪「入院を必要と認めた精神保健指定医氏名」欄

○　署名は、診断した精神保健指定医自身が行ってください。

⑫「同意した家族等」欄

○　全ての項目について漏れなく記入してください。

○　同意書や選任書の内容と矛盾がないようにご注意ください。

○　同意者が市町村長である場合は、氏名欄には職氏名（○○市長○○○○等）を記載してください。

○　入院者が未成年で親権者が両親の場合は、原則として父母それぞれについて記載するとともに、同意書にもそれぞれの署名（あるいは記名押印）をお願いします。ただし、特段の事由（虐待等）がある場合は、例外とし、その旨余白に記載してください。

○　入院者が未成年で親権者が 1 名しかいない場合は、「親権者1人のみ」と余白に記載してください。

３ 医療保護入院者の定期病状報告書 記載要領

1 記載・選択必要事項は、漏れなく記載・選択してください。

2 記載事項を訂正する場合には、次のいずれかの方法により行ってください。

(1) 欄外に記載した精神保健指定医の署名をし、『○○字加筆』『○○字削除』等の記載をする。

(2) 訂正箇所に二重線を引き、その付近に記載した精神保健指定医が署名する。

3 提出期限を厳守してください。（入院日が属する月の翌月を初月として、同月以降の 12 ヶ月ごとに提出。（例：令和４年４月１日医療保護入院⇒令和５年４月定期病状報告）保健所受理日が規定期限内となるように提出。）

4 記入に当たっては、適切で円滑な審査が出来るよう、読みやすい書体で丁寧に記載してください。また、パソコンの場合、文字ポイントは9ポイント以上としてください。なお、記載される用語は、医療の専門用語の略語や英語表記はなるべく使用せず、原則として日本語を使用してください。

5 電子カルテの利用等によりパソコンでの記載をされる場合には、記載事項の削除、書式の改変はなさらぬようお願いいたします。

6 用紙の色については、医療保護入院者の定期病状報告書は、水色としておりますので、準じた色の用紙をお使いください。

7 医療保護入院者退院支援委員会での直近の審議結果記録を添付してください。

様式第１４号

医療保護入院者の定期病状報告書

①提出年月日を記入

年　　月　　日

（あて先）千 葉 市 長

病 院 名
所 在 地
管理者名

②記載漏れに注意

医 療 保 護 入 院 者	フリガナ		生年月日	年　月　日生（満　歳）
	氏　名	（男･女）		
	住　所	都道府県　郡市区　町村区		
医療保護入院年月日（第33条第１項・第３項による入院）	年　月　日		今回の入院年月日	
			入院形態	

④複数の入院形態を経ている時は、入院形態と変更年月日を順に記載
例）措置→任意（R4.4.1）

	年　月　日		
	5 精神障害		3　身体合併症
生活歴及び現			
推定発病年月、精 受診歴等を記載す と。			
間	（入院形態　年　月　日～　） （入院形態　年　月　日		年　月　日
初回から前回までの入院回数	計　回		
実績			正月）　3 なし
過去12か月間の治療 容と、その結果及び 又は任意入院に変更 なかった理由			
症状の経過	1 悪化傾向　2 動揺傾向　3 不変　4 改善傾向		
今後の治療方針（患者本人の病識や治療への意欲を得るための取り組みについて）			

⑥
・ICD-10に準拠した病名を記入
・継続的な入院治療の対象となる病名を記入

⑥ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ+2桁以上で記載（例：F20）

⑥精神障害の原因となった身体疾患や、入院治療上、関連の深い身体疾患を記載

⑦
・生活歴は、家族歴（結婚歴）、学歴、職歴等を踏まえて記載
・生活歴に不明な部分があれば、その旨記載
・現病歴は、初発時の症状と経過と、今回の医療保護入院に至った経緯については最低限記載し、病歴が長い場合は、主なものについて記載。また、入院後の経過について記載

⑧複数の入院形態を経ている時は、入院形態を順に記載
例）措置→任意

⑧不詳の項目には「不詳」と記載

⑧
・前回入院期間は、今回の入院を除いた直近の入院期間を記載
・初回から前回までの入院回数が１回の場合は、前回入院期間・入院形態は記載せず、初回入院期間・入院形態のみ記載

⑨選択漏れに注意

⑧今回の入院が初回入院の場合は「0回」と記載

⑩ ①過去12ヶ月間の治療の内容とその結果 ② 通院または任意入院に変更できなかった理由 ③１年以上の入院が必要な理由の３点を具体的に記載

⑪選択漏れに注意

⑫個別性を踏まえて具体的に記載

退院に向けた取組の状況 （選任された退院後生活環境相談員との相談状況、地域援助事業者の紹介状況、医療保護入院者退院支援委員会で決定した推定される入院期間等について）	⑬ ①退院後生活環境相談員との最初の相談を行った時期やその後の相談の頻度②地域援助事業者の紹介の有無や紹介した地域援助事業者との相談の状況③医療保護入院者退院支援委員会での審議状況等を記載 選任された退院後生活環境相談員 ⑬相談員の氏名を記載。
＜現在の精神症状＞ ＜その他の重要な症状＞ ＜問題行動等＞ ＜現在の状態像＞ ⑭必ず１つ以上選択	Ⅰ　意識 1 意識混濁　2 せん妄　3 もうろう　4 その他（　　） 知能（軽度障害、中等度障害、重度障害） 記憶 銘障害　2 見当識障害　3 健忘　4 その他（　　） 徳　2 幻視　3 その他（　　） 想　2 思考途絶　3 連合弛緩　4 滅裂思考　5 思考奔逸　6 思考制止 迫観念　8 その他（　　） Ⅵ　感情・情動 1 感情平板化　2 抑うつ気分　3 高揚気分　4 感情失禁　5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進　7 その他（　　） Ⅶ　意欲 1 衝動行為　2 行為心迫　3 興奮　4 昏迷　5 精神運動制止 6 無為・無関心　7 その他（　　） Ⅷ　自我意識 1 離人感　2 させられ体験　3 解離　4 その他（　　） Ⅸ　食行動 1 拒食　2 過食　3 異食　4 その他（　　） 1 てんかん発作　2 自殺念慮　3 物質依存（　　） 4 その他（　　） 1 暴言　2 徘徊　3 不潔行為　4 その他（　　） 1 幻覚妄想状態　2 精神運動興奮状態　3 昏迷状態 4 統合失調症等残遺状態　5 抑うつ状態　6 躁状態　7 せん妄状態 8 もうろう状態　9 認知症状態　10 その他（　　） ⑭ ・該当するローマ数字及び算用数字を〇で囲む ・ローマ数字の選択漏れに注意
本報告に係る診察年月日	年　月　日 ⑮診療録に記載されている診察年月日と一致する年月日を記載
診断した精神保健指定医氏名	署名 ⑯診断した指定医自身が記入

審査会意見	
政令指定都市市長の措置	

記　載　上　の　留　意　事　項

1　□内は、精神保健指定医の診察に基づいて記載すること。

2　今回の入院年月日の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること。（特定医師による入院を含む。その場合は「第33条第１項・第３項入院」、「第33条第２項・第３項入院」又は「第33条の７第２項入院」と記載すること。）なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。

3　生活歴及び現病歴の欄は、他診療所及び他病院での受診歴をも聴取して記載すること。

4　生活歴及び現病歴の欄は、前回報告のコピーの添付でもよいが、新たに判明した事実がある場合には追加記載すること。

5　平成20年３月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等に含むこととする。

6　初回及び前回入院期間の欄は、他病院での入院歴・入院形態をも聴取して記載すること。

7　入院後の診察により精神症状が重症であって、かつ、慢性的な症状を呈することにより入院の継続が明らかに必要な病状であること等により１年以上の入院が必要であると判断される場合には、「過去12か月間の治療の内容と、その結果及び通院又は任意入院に変更できなかった理由」の欄にその旨を記載すること。

8　「退院に向けた取組の状況」の欄については、

①　退院後生活環境相談員との最初の相談を行った時期やその後の相談の頻度等

②　地域援助事業者の紹介の有無や紹介した地域援助事業者との相談の状況等

③　医療保護入院者退院支援委員会での審議状況等

について記載することとし、③については、必要に応じて医療保護入院者退院支援委員会における審議結果記録の写しを添付した上で、その旨同欄に明記すること。

9　現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像の欄は、一般にこの書類作成までの過去数か月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。

10　診断した精神保健指定医氏名の欄は、精神保健指定医自身が署名すること。

11　選択肢の欄は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

①「日付」欄

○　報告書を提出する年月日を記載してください。やむを得ず遅れて提出する場合も、遡及した日付とせず、実際の提出日を記載してください。

②「氏名、性別、生年月日、住所」欄

○　所定の書式に沿って、記入漏れや間違いのないようにご注意の上、記載してください。

○　氏名・住所等が不明な場合には、「不明（もしくは不詳）」と記入してください。

③「医療保護入院年月日」欄

○　平成26年4月1日以降の入院者については、法第 33 条第 1 項・第 3 項の規定により入院した年月日を記入してください。

○　昭和 63 年 7 月（精神保健法施行日）以降、平成 26 年 3 月 31 日までの入院者については、改正前の法第 33 条第 1 項の規定により入院した年月日を記入してください。

○　昭和 63 年 7 月の精神保健法施行前からの入院者については、精神保健法施行日ではなく、当該入院者の同意入院年月日を記入してください。

④「今回の入院年月日／入院形態」欄

○　入院形態にかかわらず、今回入院となった年月日及び入院形態を記載してください。
（応急入院、任意入院、措置入院等）

○　入院当初から医療保護入院の場合は、「医療保護入院年月日」と同一の日付になります。

○　複数の入院形態を経ている場合は、「入院形態」欄に入院形態と変更年月日を順に記載してください。

⑤「前回の定期報告年月日」欄

○　本報告の提出が 2 回目以降の場合には、本欄に前回報告した年月日を記載してください。

⑥「病名」欄

○　「主たる精神障害」欄については、その疾患等が精神障害を示していることが明らかになる ICD-10 に準拠した病名を1つだけ記載してください。

○　継続的な入院治療の対象となる病名を記載してください。

○　病名と整合性のある ICD カテゴリーを記載してください。（ICD カテゴリーは、アルファベットプラス 2 桁以上を記載してください。例：F20）

○　「○○の疑い」「○○状態」などの記載は避けてください。ただし、どうしても書かざるを得ない場合には、その理由を「生活歴及び現病歴」欄に明記してください。

○　「3．身体合併症」欄は、精神障害の原因となった身体疾患や、入院治療上、関連の深い身体疾患を記載してください。

⑦「生活歴及び現病歴」欄（記述式）

○ 生活歴は、家族歴（結婚歴）、学歴、職歴等を踏まえて記載してください。生活歴に不明な部分があれば、その旨記載してください。

○ 現病歴は、初発時の症状と経過と、今回の医療保護入院に至った経緯については最低限記載してください。病歴が長い場合は、主なものについてご記載ください。また、入院後の経過についても記載してください。

○ 平成 20 年 3 月 31 日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等に含めてご記載ください。

○ 陳述は、なるべく本人以外の人物から得ることが望ましいですが、それが不可能な場合や、陳述者が判明しない場合などのやむを得ない場合は、「本人」や「診療録より」などと記載しても差し支えありません。

○ 陳述者は、入院時の陳述者でなくとも、その後に過去の経過について陳述した者でもかまいません。

○ 必要事項が記載されていれば、この欄に前回届出分のコピーや印刷されたもの等別紙を貼りつけても差し支えありませんが、その場合には、付近に貼付した旨と記載した精神保健指定医の署名をしてください。

⑧「初回・前回入院期間、初回から前回までの入院回数」欄

○ 貴病院への入院に限らず、他の精神科病院への入院も含めた（他の診療科への入院は除く）入院期間及び入院形態及び入院回数について記載してください。

○ 前回入院期間は、今回の入院を除いた直近の入院期間及び入院形態を記載してください。

○ 入院回数は、1 つの病院に入院して退院するまでを 1 回と数え、入院中に入院形態の変更があってもその変更は入院回数に算入しません。

○ 今回の入院が初回入院の場合は、「0 回」と記載してください。

○ 初回から前回までの入院回数が1回の場合は、前回入院期間・入院形態は記載せず、 初回入院期間・入院形態のみ記載してください。

○ 入院形態の移行がある場合は、入院形態を順に記載してください。（例：措置→任意）

○ 不詳の項目には、「不詳」と記載してください。

⑨「過去12ヶ月間の外泊の実績」欄

○ 該当項目に必ず○をつけてください。

⑩「過去12ヶ月間の治療の内容と、その結果及び通院又は任意入院に変更できなかった理由を記載すること」欄

○ ① 過去 12 ヶ月間の治療の内容とその結果 ② 通院又は任意入院に変更できなかった理由 ③1年以上の入院が必要な理由の 3 点を具体的に記載してください。

○ 任意入院に変更できなかった理由として、①具体的な精神症状とその内容 ②本人の同意の有無 ③本人の同意能力の有無について記載してください。

○ 1年以上の入院が必要な理由として、精神症状が重症であってかつ慢性的な症状を呈することにより、入院の継続が明らかに必要な病状について記載してください。

⑪「症状の経過」欄

○　該当項目の番号に〇をつけてください。

⑫「今後の治療方針を記載すること」欄

○　個別性を踏まえて具体的に記載してください。例えば、「薬物療法」「精神療法」のみにならないようご注意ください。

⑬「退院に向けた取組の状況」欄

○　①退院後生活環境相談員との最初の相談を行った時期やその後の相談の頻度②地域援助事業者の紹介の有無や紹介した地域援助事業者との相談の状況③医療保護入院者退院支援委員会での審議状況等の3点を記載してください。

○　直近の医療保護入院者退院支援委員会における審議結果記録の写しを添付し、その旨を同欄に記載してください。

○　記載にあたっては、その相談内容等を踏まえて、退院後生活環境相談員が記載することが望ましいです。

⑭「<現在の精神症状>・<その他の重要な症状>・<問題行動>・<現在の状態像>」欄

○　過去数か月間に認められた病状又は状態像のうち、主に最近のそれに重点を置いて、該当するローマ数字及び算用数字を〇で囲んでください。必要に応じ「その他」のカッコ内に具体的に記入してください。ローマ数字の選択漏れにご注意ください。

○　「現在の状態像」欄は、必ず1つ以上の項目を選択してください。

⑮「本報告に係る診察年月日」欄

○　診療録に記載されている診察年月日と一致する年月日を記載してください。

⑯「診断した精神保健指定医氏名」欄

○　署名は、診断した精神保健指定医自身が行ってください。

4　措置入院者の定期病状報告書　記載要領

1　記載・選択必要事項は、漏れなく記載・選択してください。

2　記載事項を訂正する場合には、次のいずれかの方法により行ってください。

(1) 欄外に記載した精神保健指定医の署名をし、『○○字加筆』『○○字削除』等の記載をする。

(2) 訂正箇所に二重線を引き、その付近に記載した精神保健指定医が署名する。

3　提出期限を厳守してください。（入院措置がとられた翌月を初月として、同月以降の6ヶ月ごとに行う。（ただし、入院年月日から起算して6ヶ月が経過するまでの間は、3ヶ月）
（例:R5年4月21日措置入院⇒R5年7月初回定期病状報告、R5年10月第2回定期病状報告、R6年4月第3回定期病状報告）　保健所受理日が規定期限内となるように提出）

4　記入に当たっては、適切で円滑な審査が出来るよう、読みやすい書体で丁寧に記載してください。また、パソコンの場合、文字ポイントは9ポイント以上としてください。なお、記載される用語は、医療の専門用語の略語や英語表記はなるべく使用せず、原則として日本語を使用してください。

5　電子カルテの利用等によりパソコンでの記載をされる場合には、記載事項の削除、書式の改変はなさらぬようお願いいたします。

6　用紙の色については、措置入院者の定期病状報告書は、白色としておりますので、準じた色の用紙をお使いください。

様式第１３号

措 置 入 院 者 の 定 期 病 状 報 告 書

①提出年月日を記入

年　　月　　日

（あて先）千 葉 市 長

病 院 名
所 在 地
管理者名

④複数の入院形態を経ている時は、入院形態と変更年月日を順に記載
例）任意→緊急措置（R4.4.1）

②記載漏れに注意

⑥精神障害の原因となった身体疾患や、入院治療上、関連の深い身体疾患を記載

措　置　入　院　者	フリガナ			
	氏　名	（男・		月　日生 （満　歳）
	住　所	都道府県　郡区		
措　置　年　月　日	年　月　日	今回の入院年月日		
		入院形態		
前回の定期報告年月日	年			
	たる精神障害		3　身体合併症	
推定発病年月、精神科受診歴等を記載すること。	（陳 述 者 氏 名　　続柄　　）			
初回入院期間	（入院形	年　月　日		
前回入院期間	（入院形態　　）	年　月　日		
初回から前回までの入院回数	計　回			
過去６か月間（措置入院後３か月の場合は３か月間）の仮退院の実績	計　回			
過去６か月間（措置入院後３か月の場合は過去３か月間）の治療の内容とその結果 問題行動を中心として記載すること。				
今後の治療方針（再発防止への対応含む）				
処遇、看護及び指導の現状	隔　離	ⅰ 多様　ⅱ 時々　ⅲ ほとんど不要		
	注意必要度	ⅰ 常に厳重な注意　ⅱ 随時一応の注意　ⅲ ほとんど不要		
	日常生活の介助指導必要性	ⅰ 極めて手間のかかる介助　ⅱ 比較的簡単な介助と指導 ⅲ 生活指導を要する　ⅳ その他（　　）		

⑥
・ICD-10に準拠した病名を記入
・継続的な入院治療の対象となる病名を記入

⑥ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ+2桁以上で記載（例：F20）

⑦
・生活歴は、家族歴（結婚歴）、学歴、職歴等を踏まえて記載
・生活歴に不明な部分があれば、その旨記載
・現病歴は、初発時の症状と経過と、今回の措置入院に至った経緯については最低限記載し、病歴が長い場合は、主なものについて記載。また、入院後の経過について記載

⑦記載漏れに注意

⑧今回の入院が初回入院の場合は、「0回」と記載

⑧複数の入院形態を経ている時は、入院形態を順に記載　例）措置→任意

⑧
・前回入院期間は、今回の入院を除いた直近の入院期間を記載
・初回から前回までの入院回数が１回の場合は、前回入院期間・入院形態は記載せず、初回入院期間・入院形態のみ記載

⑩治療の内容とその結果、特に措置入院の必要性を示す問題行動を中心に具体的に記載

⑪具体的に記載

重大な問題行動（Aはこれまでの、Bは今後起こるおそれある行動）			現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像（該当のローマ数字及び算用数字を〇で囲むこと。）
1　殺人	A	B	＜現在の精神症状＞
2　放火	A	B	Ⅰ　意識
3　強盗	A	B	1 意識混濁　2 せん妄　3 もうろう　4 その他（　）
4　強制性交等	A	B	Ⅱ　知能（軽度障害、中等度障害、重度障害）
5　強制わいせつ	A	B	Ⅲ　記憶
6　傷害	A	B	1 記銘障害　2 見当識障害　3 健忘　4 その他（　）
7　暴行	A	B	Ⅳ　知覚
8　恐喝			1 幻聴　） Ⅴ　思考
9　脅迫			1 妄想　2 思考緩　4 滅裂思考　5 思考奔逸
10　窃盗			6 思考制止　7 強迫観念　8 その他（　）
11　器物			感情・情動
12　弄火又は失火	A	B	1 感情平板化　2 抑うつ気分　3 高揚気分　4 感情失禁
13　家宅侵入	A	B	5 焦燥・激越　6 易怒性・被刺激性亢進　7 その他（　）
14　詐欺等の経済的な問題行動	A	B	Ⅶ　意欲
			1 衝動行為　2 行為心迫　3 興奮　4 昏迷　5 精神運動制止
			6 無為・無関心　7 その他（　）
15　自殺企図	A	B	Ⅷ　自我意識
16　自傷	A	B	1 離人感　2 させられ体験　3 解離　4 その他（　）
17　その他	A	B	Ⅸ　食行動
（　）			1 拒食　2 過食　3 異食　4 その他（　）
			＜その他の重要な症状＞
			1 てんかん発作　2 自殺念慮　3 物質依存（　）
			4 その他（　）
			＜問題行動等＞
			1 暴言　2 徘徊　3 不潔行為　4 その他（　）
			＜現在の状態像＞
			1 幻覚妄想状態　2 精神運動興奮状態　3 昏迷状態
			4 統合失調症等残遺状態　5 抑うつ状態　6 躁状態　7 せん妄状態
			8 もうろう状態　9 認知症状態　10 その他（　）
診察時の特記事項			⑮自傷他害性と関連する診察時の言動と、措置入院継続の必要性について要約を記載
本報告に係る診察年月日	年　月　日		⑯診療録に記載されている診察年月日と一致する年月日を記載
診察した精神保健指定医氏名	署名		⑰診断した指定医自身が記入

⑬該当する全ての算用数字、A及びBを選択

⑭ローマ数字の選択漏れに注意

⑭必ず１つ以上選択

審査会意見	
政令指定都市市長の措置	

記　載　上　の　留　意　事　項

1　□内は、精神保健指定医の診察に基づいて記載すること。

2　今回の入院年月日の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること。（特定医師による入院を含む。その場合は「第33条第１項・第３項入院」、「第33条第２項・第３項入院」又は「第33条の７第２項入院」と記載すること。）なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。

3　生活歴及び現病歴の欄は、他診療所及び他病院での受診歴をも聴取して記載すること。

4　生活歴及び現病歴の欄は、前回報告のコピーの添付でもよいが、新たに判明した事実がある場合には追加記載すること。

5　平成20年３月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等に含むこととする。

6　初回及び前回入院期間の欄は、他病院での入院歴・入院形態をも聴取して記載すること。

7　重大な問題行動の欄には、Ａはこれまでに認められた問題行動を、Ｂは今後おそれのある問題行動を指し、該当する全ての算用数字、Ａ及びＢを○で囲むこと。

8　現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像の欄は、一般にこの書類作成までの過去数か月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。

9　診察時の特記事項の欄は、被診察者の受診態度、表情、言語的及び非言語的なコミュニケーションの様子、診察者が受ける印象等について記載すること。

10　診断した精神保健指定医氏名の欄は、精神保健指定医自身が署名すること。

11　選択肢の欄は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

①「日付」欄

○　報告書を提出する年月日を記載してください。やむを得ず遅れて提出する場合も、遡及した日付とせず、実際の提出日を記載してください。

○　措置入院での転院の場合は、提出月は、入院者の措置年月日から起算します。転院日ではないので注意してください。

②「氏名、性別、生年月日、住所」欄

○　所定の書式に沿って、記入漏れや間違いのないようにご注意の上、記載してください。

○　氏名・住所等が不明な場合には、「不明（もしくは不詳）」と記入してください。

③「措置年月日」欄

○　今回の措置（発令）年月日を記載してください。

○　入院中に転院した場合には、措置入院を最初にした病院の入院日となります。

④「今回の入院年月日　（入院形態）」欄

○　入院形態にかかわらず、今回入院となった年月日及び入院形態を記載してください。（応急入院、任意入院、措置入院等）

○　複数の入院形態を経ている場合は、「入院形態」欄に入院形態と変更年月日を順に記載してください。

⑤「前回の定期報告年月日」欄

○　本報告の提出が 2 回目以降の場合には、本欄に前回報告した年月日を記載してください。

⑥「病名」欄

○　「主たる精神障害」欄については、その疾患等が精神障害を示していることが明らかになる ICD-10 に準拠した病名を1つだけ記載してください。

○　継続的な入院治療の対象となる病名を記載してください。

○　病名と整合性のある ICD カテゴリーを記載してください。（ICD カテゴリーは、アルファベットプラス 2 桁以上を記載してください。例：F20）

○　「○○の疑い」「○○状態」などの記載は避けてください。ただし、どうしても書かざるを得ない場合には、その理由を「生活歴及び現病歴」欄に明記してください。

○　「3. 身体合併症」欄は、精神障害の原因となった身体疾患や、入院治療上、関連の深い身体疾患を記載してください。

⑦「生活歴及び現病歴」欄（記述式）

○ 生活歴は、家族歴（結婚歴）、学歴、職歴等を踏まえて記載してください。生活歴に不明な部分があれば、その旨記載してください。

○ 現病歴は、初発時の症状と経過と、今回の措置入院に至った経緯については最低限記載してください。病歴が長い場合は、主なものについてご記載ください。また、入院後の経過についても記載してください。

○ 平成 20 年 3 月 31 日以前に広告している神経科における受診歴も精神科受診歴等に含めてご記載ください。

○ 陳述は、なるべく本人以外の人物から得ることが望ましいですが、それが不可能な場合や、陳述者が判明しない場合などのやむを得ない場合は、「本人」や「診療録より」などと記載しても差し支えありません。

○ 陳述者は、入院時の陳述者でなくとも、その後に過去の経過について陳述した者でもかまいません。

○ 必要事項が記載されていれば、この欄に前回届出分のコピーや印刷されたもの等別紙を貼りつけても差し支えありませんが、その場合には、付近に貼付した旨と記載した精神保健指定医の署名をしてください。

⑧「初回・前回入院期間、初回から前回までの入院回数」欄

○ 貴病院への入院に限らず、他の精神科病院への入院も含めた（他の診療科への入院は除く）入院期間及び入院形態及び入院回数について記載してください。

○ 前回入院期間は、今回の入院を除いた直近の入院期間及び入院形態を記載してください。

○ 入院回数は、1 つの病院に入院して退院するまでを 1 回と数え、入院中に入院形態の変更があってもその変更は入院回数に算入しません。

○ 今回の入院が初回入院の場合は、「0 回」と記載してください。

○ 初回から前回までの入院回数が1回の場合は、前回入院期間・入院形態は記載せず、 初回入院期間・入院形態のみ記載してください。

○ 入院形態の移行がある場合は、入院形態を順に記載してください。（例：措置→任意）

○ 不詳の項目には、「不詳」と記載してください。

⑨「過去6か月間（措置入院後3か月の場合は過去3か月間）の仮退院の実績」欄

○ 過去 6 か月間（3 か月間）の仮退院をした実績がある場合には、その回数及びその期間の延べ日数について記載してください。

⑩「過去6か月間（措置入院後3か月の場合は過去3か月間）の治療の内容とその結果を記載すること」欄

○ 入院以降、直近の状況を把握するために必要ですので、その治療の内容とその結果、特に措置入院の必要性を示す問題行動を中心に具体的に記載してください。

⑪「今後の治療方針（再発防止への対応を含む）を記載すること」欄

○　「薬物療法」や「精神療法」などの治療内容の羅列ではなく、自傷他害の再発防止への対応等を具体的に記載してください。

⑫「処遇、看護及び指導の現状」欄

○　該当項目について、○をつけてください。

⑬「重大な問題行動」欄

○　Aはこれまでに認められた問題行動を、Bは今後おそれのある問題行動を指し、該当する全ての算用数字、A及びBを○で囲んでください。

⑭「現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像」欄

○　過去数か月間に認められた病状又は状態像のうち、主に最近のそれに重点を置いて、該当するローマ数字及び算用数字を○で囲んでください。必要に応じ「その他」のカッコ内に具体的に記入してください。ローマ数字の選択漏れにご注意ください。

○　「現在の状態像」欄は、必ず1つ以上の項目を選択してください。

⑮「診察時の特記事項」欄

○　自傷他害性と関連する診察時の言動と、措置入院継続の必要性について要約を記載してください。

⑯「本報告に係る診察年月日」欄

○　診療録に記載されている診察年月日と一致する年月日を記載してください。

⑰「診断した精神保健指定医氏名」欄

○　署名は、診断した精神保健指定医自身が行ってください。

５「生活歴及び現病歴」欄等の記載例

(1) 医療保護入院者の入院届／「生活歴及び現病歴」欄の記載例

千葉市にて2人同胞中第2子として出生。出生発達に問題なし。大学受験に失敗し、浪人中に不眠となり幻聴が出現したため、平成27年3月当院に初診、統合失調症の診断で2ヵ月入院した。その後は、短期のアルバイトをすることもあったが続かず、症状が徐々に増悪し平成29～令和元年に2回入退院を繰り返した。その後、定期的に外来通院していたが、令和4年春頃、服薬中断してから症状が再燃し、「裏の組織に狙われている」「盗聴器がしかけられている」との妄想が著明となる。同年4月2日父の叱責に対し興奮し暴力をふるったため、警察介入を経て当院受診、医療保護入院となった。

☞ここがポイント

- ○ 生活歴は、家族歴（結婚歴）、学歴、職歴等を踏まえて記載されていますか？
- ○ 現病歴は、初発時の症状と経過と、今回の医療保護入院に至った経緯について具体的に記載されていますか？
- ○ 病歴が長い場合は、主なものについて記載されていますか？

(2) 医療保護入院者の入院届／「医療保護入院の必要性」欄の記載例

中等度の認知症である。施設職員の話によると、ここ1カ月不眠、徘徊、物盗られ妄想、暴言が著明となり、しばしばトラブルを起こしていた。令和4年4月2日「自分のお金をとった」と興奮し、他の入所者を殴ったため、同日施設職員同伴のもと当院受診。受診時、興奮しており、質問すると「自分は病気じゃない。」と怒り、席を立とうとする。医療と保護が必要な状態であるが、本人に病識なく、入院治療に対する同意が得られない。また、家族の中で唯一1人生存している弟が行方不明となっているため、同日付で市長村長同意による医療保護入院とした。

☞ここがポイント

- ○ 「任意入院」が行える状態に無いことが明らかになるように次の ①具体的な精神症状とその内容 ②本人の同意の有無 ③本人の同意能力の有無が具体的に記載されていますか？
- ○ 市町村長同意による入院の場合は、家族等の状況を踏まえて、その理由が記載されていますか？

(3) 医療保護入院者の定期病状報告書／生活歴及び現病歴」欄の記載例

同胞3名中第1子。小学2年の頃、両親は離婚しその後は母に育てられた。高卒後、工場で仕事をしていたが、長続きせず、職を転々としていた。…（中略）…幻覚妄想状態となり、令和4年8月12日、当院に医療保護入院となった。入院後も、幻聴は継続し、ときに興奮、衝動行為あり、現在まで病状不安定で経過している。

☞ここがポイント

- ○ 生活歴は、家族歴（結婚歴）、学歴、職歴等を踏まえて記載されていますか？
- ○ 入院後の経過について記載されていますか？